

★情報収集

: 中国留学を終了された方の声 : 中国留学中の方の声

留学の目的を明確にして情報収集を行うこと

何をしに留学に行くか、どのように資金調達をするか、どの大学に行くか、帰ってきたら何をするか等、留学前から留学後までの一連の予定を具体的に立てることが重要です。そのためには、早めに情報収集を行い、早めの準備が必要です。(専門、政府奨学金)

事前の情報収集の重要性

あらかじめきちんと情報収集をして渡航することが大切だと思います。(語学、交換・派遣)
事前によく調べる。特に進学希望の学校があるならその学校の在学学生または卒業生に聞く。安全・健康に注意する。最終的に留学先で頼れるのは自分しかないということを心得ておく。(専門、私費)
留学前にできるだけ語学力を高めておくといいと思います。また、現地の現状等は実際に留学してみないと分かりませんが、私はあらかじめ留学経験のある先輩に体験談を聞き、その事が留学後に役に立ったので、留学前の情報収集はできるだけ行った方がいいかと思います。(語学+専門、政府奨学金)
現地に留学中の知り合いがいるなら、事前に聞いておいて方が良いことがたくさんあります。SNSなどを使ってアドバイスを貰うのは自分にとってプラスになると思いました。(語学、私費)
留学前の様々なツールによる情報収集が大事であるとともに、現地入り後に日々入手する新規情報に対する真偽を見極める目を、自ら磨く必要がある。(語学、会社派遣)

一次情報源(オリジナルの情報源)から情報を得ること

日本国内での情報収集と、海外での情報収集は方法・考え方などいろいろなところでギャップがあります。便利になっていても、インターネットだけを過信しないようにしましょう。(専門、政府奨学金)
日本で得られる中国の大学に関する情報など(寮や授業の様子)は、よく変更があるし、あんまりあてにならない。もし、コミュニケーションするだけの語学力があるのならば、実際に電話やインターネットを利用して直接尋ねるのが一番確実です。(専門、政府奨学金)

奨学金情報の収集

私はJASSOに短期または長期留学用の奨学金があると知ったのが遅かったので、申し込めませんでした。留学するつもりならば早めに、出来れば一年以上前からお金のことについても調べておけば良いと思います。(語学、私費)
情報収集と奨学金などの応募をすることが重要だと思います。留学体験ブログなども参考になります。(語学+専門、政府奨学金)
日中両政府や各種団体が奨学金を用意しているので、そうした奨学金を利用すること。(語学+専門、政府奨学金)
政府奨学金の語学進修生として1年留学している。政府奨学金の利点は、資金面での心配が少ないことだ。欠点は、留学先を決められないことだ。これは留学後に後悔する最大点である。私は第三希望までのどれにもあてはまらない大学にいる。この大学は、日本人が少ないなど利点はいろいろあるが、クラス数・教師・事務所数々に問題がある。そのため、アドバイスとしては留学パターンのメリットデメリットを考慮する重要性を伝えたい。(語学、政府奨学金)

情報収集を人任せにしない

人任せにせず自分で情報を集めること。日本と違うことがあっても拒否したりせず、なぜ違うのかを考えながら柔軟に対応することに気を付けていれば、困ることが少なくなると思います。どうしても受け入れられない事は、理由を説明して伝えることも大事だと思います。現地では積極的に中国語を話したり、行動範囲を広げることで早くなじむことができました。慣れ始めたころに病気にかかる方が多かったので、病院への行き方の確認、保険の準備、日本で飲んでる薬や持病を訳した紙などを準備しておくことと安心だと思います。できれば行く前に、日本と中国の関係や、中国の歴史、習慣、最近のニュースなどを勉強していくと良いと思います。(語学、私費)

日本人同士での情報交換

現地ではなるべく日本人以外と仲良くなり、一緒にいるほうがいい！でも相談できるいい日本人の友人は1人は必要！とにかくお金の許す限りいろんなところに行き、いろんなことをしてみる！学校の用意する交流会には積極的に参加して、現地の友達を作る！なにより、日本での生活を基準に物事を捉えないことが大事！何事も前向きに、“違うことが面白い”と覚悟することが大事！（語学、私費）

日本人以外の人(各国からの留学生、現地の人)と多く交流をもてば語学力向上につながります。日本人との交流は最小限に抑えてください。しかし、いざとなったときに日本人の手助けが必要なときがあります。ですので、コネクションだけは持っていてください。（語学＋専門、交換・派遣）

留学先にいる日本人とは仲良くなっておいた方が、現地のこととか大学の制度など詳しく教えてくれたりするから便利です。（語学、私費）

留学したばかりのころは、日本語を使わないようにできるだけ日本人と接さないようにしていましたが、今思えばそうではなくて、日本人であっても外国人であっても、友達になっていけば、問題が起きたときお互い助け合うことができていると思います。（語学＋専門、私費）